

平成 25 年度第 3 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 25 年 10 月 18 日（金）8 時 00 分～9 時 00 分

開催場所：幕張メッセ国際会議場 2 階 204

出席者：紺野慎一（担当理事）、竹下克志（委員長）、金森昌彦、金山雅弘、寒竹司、田中信弘、種市洋、橋爪洋、松永俊二（以上、委員）、川上守、福井充、松本守雄（以上、アドバイザー）

欠席者：笠井裕一、清水敬親、細野昇（以上、委員）、高橋和久、宮本雅史（以上、アドバイザー）

課題

1. JOACMEQ、JOABPEQ 健常者調査について

JOACMEQ 健常者調査について（担当：田中委員）

健常者調査票の VAS 値の取り扱いについて、1)NRS（数字）のみを記入しているものがそのまま VAS 値に換算されている例が少数（高齢者に多くみられる傾向）にあったこと、2)それらを含めなくても全体的な統計値には影響を及ぼさないため、NRS のみ記入例を含む VAS 無効例は統計データから除外したこと、3)VAS 値を修正したものを論文の最終バージョンとして再投稿したこと、4)JOS の査読者から調査参加者の包括基準/除外基準である”healthy volunteers”について、より明確な定義を求められたこと、千葉一裕先生（前アドバイザー）から「”healthy volunteers” “volunteers without orthopaedic problems (healthy は削除)”への変更を検討してはどうか」との助言を頂いたこと、5)田中委員の考えとしては、本プロジェクトの出発点が健常者調査であり、論文タイトルも副題として”An average score of healthy volunteers”と表記しているため、”healthy volunteers”という用語は残し、論文中にその定義を述べるようにしたい、6)論文では最終的に”They were self-supporting and **required no medical assistance for orthopedic diseases**. Subjects with cognitive impairment who cannot understand the questionnaire, **those who are under treatment for orthopedic disorders and/or have a history of cervical spine surgery were excluded from the study**. Medical professionals were also excluded from the subjects.”と記載したこと、以上が報告され出席者全員の承認を得

た。

JOABPEQ 健常者調査について（担当：橋爪委員）別資料あり
まず本プロジェクトのデータ解析を担当する福井アドバイザーより、1)本プロジェクト参加者全体（1469名）の統計指標（施設別／性年齢別／都道府県別度数分布、腰部痛有無／殿部痛有無／各ドメイン・VASの性年齢別度数分布と平均値・中央値・標準偏差・最小値・最大値）、2)腰痛の有無／殿部痛の有無により群分けし各ドメインの平均値／中央値／VASを示したクロス集計表、以上2点の資料の説明が行われた。次に橋爪委員より補足事項として1)本プロジェクトにおける健常者の定義はJOACMEQ調査に準拠すること、つまり腰痛、殿部痛を有するものであっても本調査における定義に合致するものは対象から除外しないこと、2)しかしながら、腰痛／殿部痛の有無によるJOABPEQ各ドメイン／VASの違いは興味深いものであり、論文査読者など第三者から質問に答えるための参考資料として福井アドバイザーに解析を依頼したものであること、3)今後はJOS投稿のための論文執筆作業に入ること、が説明された。

2. プロジェクト研究進行状況について

「腰椎変性すべり症に対する手術治療の有用性に対するJOABPEQを用いた多施設前向き研究」（担当：寒竹委員）別資料あり

寒竹委員より2013年10月時点での参加13施設の進行状況が報告された。
1)登録症例数は76例、うち固定が49例、除圧が27例であった。2)症例登録は本年12月末まで引き続き行う。3)学会等での報告は（フォローアップデータ集計後となる）2015年度に行う見込みである。

「腰椎変性側弯症の健康関連QOL低下に及ぼすX線学的（脊柱変形）パラメータを検討する多施設横断研究（担当：種市委員）別資料あり

種市委員より2013年10月時点での参加18施設の進行状況が報告された。
1)横断調査が終了したものは77例である。2)現在X線学的（脊柱変形）パラメータ計測の信頼性評価を行っている。3)獨協医大と東京大学に所属する10人の整形外科医が計測ソフトを用いて行った計測では各種脊柱変形パラメータの検者間(0.96-0.78)／検者内(0.97-0.84)信頼性は十分に高いことが確認された(10月23-24日開催の日本側彎症学会でポスター発表予定) 4)東洋検査センターに所属する2名の社員が計測した場合でも同様に

高い検者間 / 検者内信頼性が得られた (前回の当委員会で報告済み)。3) 今回抜き打ちで新たな DLS 患者 2 名の匿名化画像データを東洋検査センター 2 名に送付し計測してもらったが、なお十分に高い計測精度が得られた。

「術者によって頸椎症の手術成績 (JOACMEQ) に差があるか」(担当 : 細野委員)

細野委員 (欠席) からは前回の当委員会以後に新たな進展の報告はなかった旨、竹下委員長より報告された。

3. その他

JSSR2014 主題「患者立脚型アウトカム (JOACMEQ、JOABPEQ) を用いた臨床研究」について

1) 当委員会からは「JOACMEQ 健常者調査 (田中委員)」「JOABPEQ 健常者調査 (橋爪委員)」「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的パラメータの検討 (種市委員)」の 3 題は推薦を決定とした。2) 細野委員の「術者によって頸椎症の手術成績 (JOACMEQ) に差があるか」については発表可能な状況であるか否か竹下委員長から細野委員に確認することとなった。3) 当委員会から推薦された演者に対しては JSSR2014 学会事務局 (和歌山県立医科大学) よりパネルディスカッションでの講演依頼を送付する、パネルディスカッションの抄録締切は 2013 年 12 月末となる見込みであることが橋爪委員より説明された。

JOABPEQ/JOACMEQ の iPad アプリ (電通サドラー・アンド・ヘネシー社) について

竹下委員長より前回の当委員会以後の進展は特にないことが報告された。

4. 次回予定について

専門医試験日程に合わせて

2014 年 1 月 23 日 (木) または 24 日 (金) 神戸

に行われること、正式な日時については当委員会のメンバーにアンケートを行った上で決定されることが確認された。